

東京 IPO 特別コラム

2017年5月22日 Vol.80

2017年1-4月IPOを振り返る

1月27日のシャノン(3976)から始まった2017年のIPOも4月までに32銘柄が皆さんの前にデビューし活発な売買が繰り広げられています。例年通り5月のIPOはなく、束の間の休息ですが既に6月のIPOとして3銘柄が発表されており、皆さんはまた公募申し込みの検討をされているものと思います。昨年の6月は12銘柄がIPOして参りましたので、今後また追加発表されるものと思われると思います。本コラムではこうしたタイミングを見計らって2017年1-4月のIPOを振り返っておきたいと思います。

トランプ相場が年初から続く中で1、2月には6銘柄(シャノン、安江工務店、日宣、フュージョン、ユナイテッド&コレクティブ、レノバ)がIPOしましたが、概ね順調な滑り出しとなりましたが、上場後の高値から北朝鮮問題の浮上で多くは大きく値を下げてしまいました。IPO銘柄の株価のパターンは大半の銘柄で初値高となりその後も高値をつけにいくケースが多いのですが、そうした短期的な高値を経て調整が始まり、その後ボトムをつけるに至ったのがこれらの銘柄です。中には日宣(6543)のように初値がほぼ天井となってしまった銘柄もありますが、安江工務店(1439)やレノバ(9519)のようにやや地味な銘柄が初値からその後の高値まで約2倍にまで上昇したケースも見出せます。

その後の3月はロコンド(3558)から始まりネットマーケティング(6175)までの21銘柄がIPOを果たしましたが、不透明な相場展開の中で一時的には上値が抑えられる場面もありましたが、先週末現在までに初値から大きく株価の上昇が見られる銘柄も見出せます。とりわけ物流管理のファイズ(9325)や、一時ネガティブな意見も見られた、ほぼ日(3560)、BPO関連のうるる(3979)、好業績が伝えられたジャパンエレベーターサービス(6544)といった銘柄が堅調な推移を辿っています。

IPO後に最も顕著な株価上昇が見られたのが創薬ベンチャーのソレイジア・ファーマ(4597・マザーズ)で公開価格185円に対して3月24日の初値は234円。その後の安値219円から一貫して上昇傾向を辿り5月17日の高値652円まで約3倍まで跳ね上がりました。このほか、貸会議室事業を展開するティーケーピー(3479・マザーズ)が公開価格6060円に対して3月27日の初値は10560円。その後の安値9490円を経て直近の高値15250円をつけるなど堅調な値動きが見られます。3月はマクロミル(3978)、オークネット(3964)、スシロー(3563)など東証1部に再上場した銘柄があり、これらも上場直後は下押しの場面も見られましたが、売り物を消化し徐々に上向いてきているようです。

直近4月のIPOは6日のテモナ(3985)からアセンテック(3565)までの5銘柄ですが、概ね順調な株価のトレンドが見られます。特に4月10日に東証2部上場のウェーブロックホールディングス(7940)は決算発表内容の良さを受け公開価格

東京 IPO 特別コラム

750円から安値619円を経て5月17日には1073円と言う高値まで出来高を伴って意外高を演じました。比較的事業内容が地味な銘柄も業績内容を吟味しながら市場人気を高めている点が注目されます。比較的流動性の高い東証2部、1部銘柄にも人気化する素地があると見られますが、一方で上場時に人気を集め初値で高寄りしたマザーズ銘柄にはまだ初値を下回ったまま推移している銘柄も見られます。6月からのIPO相場に向け皆さんもこれまでのIPO銘柄を東京IPOサイトなどでチェックされてはいかがでしょうか。

(東京IPOコラムニスト 松尾範久)